令和５年度　学校評価結果

甲府市立善誘館小学校

「重点目標についての成果と課題及び考察」
～教職員･児童･保護者の三者のアンケート結果より～

［参考資料］

○令和４年度学校評価 教職員アンケート ○令和４年度学校評価 児　童アンケート ○令和４年度学校評価 保護者アンケート	○令和５年度学校評価 教職員アンケート ○令和５年度学校評価 児　童アンケート ○令和５年度学校評価 保護者アンケート

Ⅰ「豊かな人間関係」について

（１）あいさつ運動の推進について

【設問１】

【教】子供たちは自ら進んであいさつをしている。
【児】あなたはまわりの人に進んであいさつをしていますか。
【保】お子さんはあいさつがよくできていると思いますか。

肯定的評価をした児童の割合は８９％であり，昨年度より６ポイント低下している。学年別では５，６年生の児童による否定的評価は０％であったが，その他の各学年では１０％前後の児童に否定的評価があった。あいさつは，しているつもりであっても相手に伝わらなかったり意識に個人差があったり，学校ではできても外ではできないなど全体としての成果がわかりづらいものであるからこそ，継続した取り組みが必要となる。職員，保護者についても肯定的評価が９０％に届いておらず，保護者からの記述回答でも，あいさつが不十分であるという指摘があることから，さらに改善が必要だと思われる。

今後は，更に児童一人一人の意識を高めるとともに，どうすれば保護者や地域の方々など，相手に伝わる挨拶ができるのかについて，子供たちとともに考え，改善できるように努めていきたい。また，学校や家庭や地域が一体となって取り組みを継続させることが大切である。学校内での継続した取り組みや，家庭や地域での大人から子どもへの声かけ等，指導の工夫について考え，これからも引き続き実践していきたい。

（２）一人一人の居場所があるあたたかい環境づくりについて

【設問２】

【教】子供たちは思いやりの心や命を大切にする心が育っている。
【児】あなたは友達にやさしく接し，仲良く生活していますか。
【保】お子さんは思いやりの心や命を大切にする心が育っていると思いますか。

この質問項目については，教職員，保護者共に極めて高い達成率となっている。教職員は１００％，保護者は９９％が肯定的評価を行っている。教職員も保護者も，子供たちに「思いやりの心」が育っていることを，子供たちの日々の様子から実感している表れであると考えられる。児童の結果に関しても，昨年度とほぼ同じ９５％が肯定的評価を行い，多くの児童が，自身に思いやりの心が育っていることを実感していると考えられる。気になる点といえば，「あまり思わない」「思わない」と回答した児童が４％いたことである。今後も，「特別の教科道徳」を要として，各教科，特別活動，体験活動や多様な表現の鑑賞等，教育活動全般を通して豊かな心を育み，すべての児童が「思いやりの心」の成長を実感できるようにしていきたい。

【設問３】

【教】子供たちは学校や社会の決まりを守っている。（守っていると思いますか）
【児】あなたは，学校や社会の決まりを守っていますか。
【保】お子さんは，学校や社会の決まりを守っていると思いますか。

児童，保護者は，肯定的評価が９５％を超える大変高い達成率である。このうち，児童は昨年度より２ポイント上がっている。教職員に関しても，昨年度よりは６ポイント下がってはいるが，９４％と高い達成率である。遵法精神を涵養する家庭教育，そして学校における道徳教育等の成果に加え，学校外での子供たちの様子に高い関心を寄せ，学校の外で「してはいけないこと」を子供たちがしていれば，その場面を捉え注意してくれる地域の教育力があるからこそであると考えられる。ただ，児童の中に１％ではあるが「思わない」との回答があり，重く受け止める必要があると考える。

今後は，学校での道徳教育の更なる充実に加え，地域との連携をより深めることにより，全ての児童が自ら決まりを守ることの重要性を自覚し，実践していけるよう継続して取り組んでいきたい。

【設問４】

【教】子供の悩みや相談を積極的に聞き，いじめの早期発見に努めている。
【児】先生は困ったときに話を聞いてくれますか。
【保】お子さんは先生を信頼していると思いますか。

この設問は，「子供に寄り添った指導ができているか。」ということが問われている設問である。この設問に対して，児童，保護者，教職員の三者いずれの結果も９０％を超えていた。特に，保護者と教職員に関してはともに肯定的な評価が１００％となっており，保護者からも一定の信頼を得ていることが伺える。これらの数値結果より，現段階では，子供たちの悩みに教職員は十分対応できているということが推察できる。一方で，児童の回答では肯定的評価が昨年度より４ポイント下がり，９３％であった。一部の児童からのSOSを見過ごしてしまっている現状もあることを踏まえ，教職員は更にアンテナを高くし，全ての児童にとって良き相談相手としての自覚や資質の向上を図る必要があると考える。

また，学期ごとに行ったいじめ調査からは，若干ではあるがいじめにつながりかねない行為や言動等が見られ，学級指導や個別指導を行った。今後も，本校の「いじめ防止基本方針」に沿って，その対応について共通理解を図っていきたい。また，個々の教職員がアンテナを高くし，子供たちの状況を常に把握することで，未然防止に努めていきたい。本校は，すべての学年が単級であるということで，人間関係が固定化してしまうという弊害も考えられる。今後，本校の実態を見据えながら，すべての児童にとって心地よく過ごせる居場所のある学校となるよう努力していきたい。

【設問５】

【教】子供たちが読書に親しめるような工夫をしている。
【児】あなたは自分から進んで本を読んでいますか。
【保】お子さんは自分から進んで図書館の本を借りたり本を読んだりしていると思いますか。

教職員の９４％が肯定的評価なのに対し，児童，保護者のその割合はそれぞれ，７０％（昨年度に比べ１０％減），７６％（同１％減）という結果となり，大きな乖離があった。教職員の多くが“子供たちが読書に親しめるような工夫をしている”という意識があるのに対して，児童や保護者は教員ほどその実感がないのであろうことが数値結果より推察できる。「朝読書」，「夏季・冬季休業前の複数冊の貸し出し」や「うち読」，「としょかんのおか」の掲示，教職員の「おすすめの一冊」の紹介，教職員による「読み聞かせ」等々，子供たちの読書への関心を高めるための取り組みは様々な形で行っているが，結果に結びついていない現状がある。現在行っている取り組みの内容を改善・充実していきたい。

今年度は，新型コロナウイルス感染症対策の一つとして実施を見合わせていた，地域ボランティアによる「朝の読み聞かせ」が再開された。児童は，目を輝かせながら食い入るように聞き入っていた。子供たちの読書への関心の高まりに繋がっていくことを期待したい。

Ⅱ　「確かな学力の定着」について

（１）言語活動の充実と基礎・基本の学力の定着について

【設問６】

【教】子供たちが達成感がもてるようなわかる授業・楽しい授業を行っている。
【児】授業はわかりやすく楽しいですか。
【保】お子さんは授業の内容がわかっていると思いますか。

教職員に関しては，肯定的評価の割合が８２％であるが，学習指導を担当していない職員は未回答であるため，実質は１００％となっている。いずれの職員も楽しくわかりやすい授業づくりを心がけていることが数値から読み取れる。具体的には，基礎・基本に基づいた確かな学力を児童に身につけさせるために，学習過程の工夫，教材・教具の工夫，学習形態の工夫，ICT の活用等々，種々の工夫を授業に取り入れて実践を行っている。しかし，児童及び保護者における肯定的評価はそれぞれ８９％，８８％となっており，今回の回答結果は課題として受け止める必要があると考える。特に，児童の４％は「そう思わない」と回答しており，教員の思いとの隔たりがある。子供たち一人一人の特性に合ったきめ細かな指導をすること，保護者の教育的ニーズを的確に把握して授業づくりに反映させること，などを心がけながら，よりよい授業づくりに

は努力を惜しまず取り組んでいきたい。

【設問７】

【教】子供たちは,「話す・聞く・読む」などの言語の力がついている
【児】自分の思いや考えを話したり文章に書いたりする活動に進んで取り組んでいますか。
【保】お子さんは,「話す・聞く・読む」などの言語の力が前よりもついてきたと思いますか。

教職員の肯定的評価が８２％，児童が７９％と振るわないところからも，改善が求められる項目であろうと考える。本校では，昨年度までの校内研究の振り返りや全国学力・学習状況調査等の結果から，児童の実態として，話したり，書いたりする力の育成が十分ではなく，筋道を立てて考えたり，理由や根拠を示して説明したりする力が弱いと分析している。そこで，今年度は「書くこと」に重点を置き，書く力の向上を目指した指導を通して，思考力・判断力・表現力等の育成を目指してきた。教員各自が,「学習活動の見通しをもつ工夫」,「書く活動と他領域との関連を図る工夫」,「書いたものを基にした交流活動の工夫」等を，それぞれの学級の特性や学年の発達段階に応じて教育活動に取り入れながら授業づくりに取り組んでいる。保護者の肯定的評価が９４％という数字は，客観的な立場からその成果を感じているものと考えられる。しかし，肝心の子供たちの約２割がその成果を実感できていないという結果を踏まえ，全ての児童が“言語の力”の向上が自覚できるようにしていきたい。そのために，子供たちが，自分の思いや考えに自信を持って，言語（話す・書く）を用いて表出する機会を意図的に設定していくことが大切であると考える。日常的な取り組みとして朝のスピーチやペア・グループでの話し合い活動，お互いの文章を読み子供たち同士で肯定的に評価し合う活動等を授業の過程に位置づけたりすることが有効であろうと考える。また，ICT の活用や読書活動，言語環境の整備等の推進も図っていきたい。

（２）一人一人を大切にしたきめ細かな学習指導について

【設問８】

【教】授業中や授業以外の時間に個別指導をしている。
【児】先生は勉強がわからない時には，わかるまでていねいに教えてくれますか。
【保】先生は，お子さんがわかるように丁寧な指導をしてくれていると思いますか。

児童，保護者の達成率が９５％を超える高い達成率となっている。また，教職員についても肯定的評価が８９％となっているが，学習指導を担当していない職員は未回答であるため，実質は１００％という結果である。多くの保護者が，教員のきめ細かな学習指導に理解を示し，好意的に受け止めていることが数値から読み取れる。教員のほぼ全てが肯定的評価をしていることからも，つまずいている子のために，教員は時間をやりくりしながらきめ細かに学習指導を行うことで児童のニーズに対応できているという感触があり，子供たちもそれを実感を伴って受け止めていると考えられる。

一方で，児童の５％が否定的評価を行っている。引っ込み思案の児童は，自分から「分からない」という意思表示が苦手なので，各担任は，自身が担当するクラスの児童の特性を詳細に把握し，意思表示が苦手な子には教員から進んで声かけをし，分からないことを分からないままにしないように心がけたい。

【設問９】

【教】個々の努力や成果を認め，励まし伸ばそうと努力している。
【児】先生は努力したことを認め，励ましてくれますか。
【保】学校は，お子さんの良いところを認め，伸ばそうとしていると思いますか。

児童，保護者，教職員の三者共に，肯定的評価が９０％を超える，高い達成率となっている。教職員が児童に対して，肯定的な評価を心がけていることが数字に表れているのではないかと考えられる。子供たちのやる気を引き出し，自尊感情を涵養するためにも，肯定的な内容の言葉がけや努力を認めたり評価する言葉がけを行っていきたい。

【設問１０】

【教】宿題や家庭学習の内容や取り組み方について，適時適切に指導している。
【児】あなたは，宿題や家庭学習を必ずやっていますか。
【保】お子さんは宿題や家庭学習を必ずやっていると思いますか。

児童と保護者は肯定的評価の割合が９０％を超え，高い達成率を示している。昨年度と比較しても，児童は４ポイント，保護者は５ポイントの増加となっている。また，昨年度は５％の児童が「思わない」と回答しているが，今年度は０％となっている。家庭学習は各家庭の支えが必要であり，高い評価は，教員の取り

組みと各家庭の理解と協力があってこそのものである。４月当初，各家庭に文書をもって家庭学習への協力を要請し，同時に「家庭学習の手引き」を配布して家庭学習の仕方や，取り組んでほしい学習内容等について説明させていただいた。学校と家庭が車の両輪となって取り組んできた成果が良好な数値として表れているのではないかと思われる。

一方で，「あなたは，宿題や家庭学習を必ずやっていますか。」という設問に対して８％の児童が「あまり思わない」と否定的な回答しているということは，その子たちには，自身の納得がいく家庭学習ができていないという感覚があるのではないかと推察する。対応策としては，学校においては，家庭学習の仕方に迷ったり困ったりしている子に対して，それぞれのニーズに即した指導またはアドバイスを教員が行うようにする。また，各家庭においては，再度「家庭学習の手引き」に目を通し，「家庭学習のさせ方」「時間のめやす」「家庭学習のポイント（保護者へのお願い）」等を確認してもらい，わが子の家庭学習をサポートしてもらうようにする。

学校と家庭とが協力して取り組むことで，児童が成就感を感じられる家庭学習を目指したい。

Ⅲ　「健やかな心と体」について

（１）健康な体づくりについて

【設問１１】

【教】子供たちは，「早寝・早起き・朝ご飯」を中心とした基本的生活習慣が身に付いている。
【児】あなたは，「早寝・早起き・朝ご飯」を守り，健康や食べ物について気をつけて生活していますか。
【保】お子さんは「早寝・早起き・朝ご飯」を守り，健康や食べ物について気をつけて生活していると思いますか。

児童，保護者のいずれも肯定的評価が，８５％，８３％と，低い達成率となった。

学校では，養護教諭による学年に応じた保健指導，定期的な保健だより「すくすくだより」を通じて，様々な検診や病気の予防に関わる知識や情報の発信，また，基本的な生活習慣の定着を目指して取り組んだ「生活リズムチェック」など，年間を通して児童の健康や生活についての指導や取り組みを行ってきた。これまで大きなけがや病気もなく，児童が元気で明るい学校生活を送ることができたが，生活習慣の面では，学校評価アンケートにあるように，「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣については定着しているとは言い難い。今後は，更に工夫や改善を行いながら継続的・発展的な指導を行い，子供たちの実態に合った健康・保健についての活動を仕組んでいきたい。

【設問１２】

【教】個々の能力に応じた楽しく達成感のある体育授業をしている。
【児】体育の授業は楽しいですか。。
【保】お子さんは体育を楽しみにしていると思いますか。

児童の肯定的評価は昨年度より４ポイント増加し９８％，教職員も実質１００％と高い達成率を示している。昨年度までは，新型コロナの感染防止のために体育の内容にも制限があり十分な体育活動ができていなかったが，本年度は，制限がなくなり徐々にコロナ前に戻りつつある中で，その発達段階に応じた授業内容や，使用する教具を工夫し授業を行うことができるようになった。そのことが児童の実感につながり，高い達成率に結びついていると考えられる。

一方で，保護者は肯定的評価が昨年度より４ポイント低い８９％であった。今後は，保護者の理解も得られるよう，今まで以上に楽しく成就感が感じられるような体育授業づくりを心がけていきたい。

【設問１３】

【教】外遊びの奨励を中心に，体力向上のための手立てを講じている。
【児】あなたは，運動することや外に出て遊ぶことが楽しいですか。
【保】お子さんの体力がついてきたと思いますか。

児童と保護者の肯定的評価は９０％を超え，高い達成率であり，特に，児童は昨年度より 4 ポイント増加している。その理由としては，設問１２と同様に新型コロナウイルス感染症による活動制限の緩和により，体育や保健の授業はもとより，運動会などの全校的な体育行事や，縦割り班で長縄跳びに取り組む一校一実践，児童会主催の縦割り活動など，年間を通して意図的，計画的な体力の向上に取り組んできた成果であると考えられる。

また，各担任は休み時間の外遊びを奨励し，時間の許す限り外に出て一緒に遊ぶなど，子供たちに外遊び

を促す取り組みを行っている。今後もそれらの取り組みの重点化と継続によって，子供たちが校庭に出て体を動かす機会を確保し，体力の向上を図りたい。

（２）自分の身を守る力の育成について

【設問１４】

【教】防災・防犯訓練を生かして，危機管理意識を高める指導を行っている。
【児】あなたは，地震や火事，こわい人に会ったときにどうしたらよいかわかりますか。
【保】お子さんは，防災・防犯について，いざという時にどのように対応するかわかっていると思いますか。

児童の肯定的評価は昨年度より２ポイント増え９７％，教職員は実質１００％と大変高い結果となった。一方で，保護者の評価は昨年度より３ポイント減り８０％と前者とは対照的な結果となった。本年度は，「避難訓練」（地震想定，火災想定各１回ずつ），「引渡訓練」，「防犯訓練」，「水害避難訓練」，シェイクアウト訓練等の訓練を行い，児童に，非常時における行動の仕方や心構えについての指導を実施している。今年度，火災の訓練では，防火扉を使用した訓練や，地震の訓練では児童への予告をせずに行った休み時間の訓練など，児童一人ひとりが災害の怖さを知り，災害時には自分の命を守る行動がとれるような訓練を目指して計画・実践し，成果を上げることができた。また，防犯の観点からは，南甲府警察署署員による防犯訓練を実施することができた。水害避難訓練では，昨年度までの「図上訓練」から，実際に垂直避難を実施し，成果と課題について検証を行った。今後も，児童一人一人が非常時に備えられるような様々な想定の訓練を実施していきたい。

児童・教職員に比べ保護者の肯定的意見が若干低めなのは，それらの取り組みが，各家庭に十分に伝わっていないからではないかと推察する。学級通信，学校便り，ホームページ等を使って，避難訓練も含めた学校の危機管理に関する取り組みについて積極的に情報を提供することで，保護者の理解も深まるのではないかと考える。

「地震災害への備えと対応」の配布と「わが家の防災マップ」作成は，本校独自の取り組みである。児童，保護者，教職員が共に防災に関する意識を高める大変有効な取り組みであるので，今後も継続していきたい。

【設問１５】

【教】登下校の安全指導を日常的に行っている。
【児】あなたは，交通ルールを守り，安全に登下校していますか。
【保】お子さんは，登下校の安全に気をつけていると思いますかb。

登下校時の交通安全に関する意識は，三者とも高いことが回答結果より分かる。教職員による日頃からの交通安全指導に加え，１年生対象の「交通安全教室」や３年生対象の「自転車教室」，夏季休業前の交通安全ビデオの視聴などにより，子供たちは，交通ルールや安全に登下校するために留意すべきことを学んでおり，児童の交通安全への意識が高いのはそのためであろう。また，PTA が主体となって毎日実施している，登校時の「旗振り」も，子供たちを交通事故から守るのに大いに寄与していると考えられる。

各小中学校，甲府市，警察署の三者により実施された「通学路点検」では，市と警察に対して本校の通学路に関する課題についての説明と改善要求を行い，安全・安心な環境作りに取り組んでいる。今後も，学校，家庭，地域と行政が協力して，児童の登下校の交通事故０を目指したい。

Ⅳ「開かれた学校づくり」について

（１）保護者・地域との連携について

【設問１６】

【教】学校の教育活動を保護者や地域に知らせ，理解を得ている
【保】学校からのホームページから，学校の様子がわかりますか。

護者の肯定的評価は９５％で昨年度より５ポイント増加，教職員も実質１００％となっており，いずれも，高い達成率である。「学校便り」，各学年ごとの「学年便り」，HP に加え，授業参観及び学級懇談会等により，学校の教育活動や学校での児童の様子について保護者に伝えることができたことが数値に表れていると思われる。地域の人たちにも，学校便りと HP を通して教育活動の様子を最低限お伝えできた。

また，本年度は，学校運営協議会委員の方々にも学習支援，安全支援，体験活動，環境整備の各部門に分

かれ，教育活動を強力に支援していただき，成果を上げることができた。今後も，地域との連携を推進していきたい。

【設問１７】

【教】保護者等が相談しやすい関係を作っている。
【保】学校に，お子さんのこと，学校のことなどを安心して相談できますか。

この設問に関しては，保護者，教職員ともにきわめて高い達成率である。保護者の肯定的回答は 2 ポイント増え９８％となった。保護者の多くが教職員，特に担任との間に良好な関係性と信頼感を感じていることがデータから読みとれる。

一点危惧したことは，否定的回答をした保護者が２％あったことである。担任以外にも，管理職，特別支援担当教員，養護教諭，スクールカウンセラー等，相談窓口を広く開いて，悩みを持つ保護者に積極的な対応をしていきたい。相談内容によっては，外部の専門機関（こころの発達総合支援センター，県総合教育センター，適応指導教室等）と連携しその協力を得て，保護者の要望に対して適切に応じられるようにしていきたい。

記述回答（保護者より）

【◎⇒好意的意見　△⇒課題・改善要求 】

	記　述　内　容
◎	・保護者も学童も良い関係性があり，地域の方々にも見守りをしていただけ良い環境下だと思う。 ・子供の様子がいつもと違ったり困ったときに，色々と相談にのってもらいありがたい。 ・たくさんの先生方が声をかけてくれたり，褒めてくれている。見守っていただきありがたい。 ・いつもありがとうございます。 ・先生と生徒のコミュニケーションがとれている。地域の方々とのふれあいもできている良い環境である。 ・息子の成長を日々感じうれしく思う。ありがとうございます。 ・様々な先生方が気にかけてくれ，熱心に御指導いただきありがたく感じている。 ・お陰様で，ここまで順調です。
△	・失礼な態度を他者や先生にとる子がいるようです。 ・アンケートは無記名の方が意見が集まると思う。 ・給食の献立表を紙で配付してほしい。 ・もう少し丁寧な授業の進め方をしてほしい。また，宿題の量が少々多い。 ・宿題が多く，放課後からの予定に影響が出る。 ・挨拶ができない児童が多いと感じる。挨拶をしても無視し，目を反らす。 ・担任と個別で話す機会が少なく，学校生活の詳細がわかりづらい。 ・保育園では園フォトという，写真購入アプリを使用していた。小学校にもあると嬉しい。

学校関係者評価委員会からの提言

Ⅰ「豊かな人間関係」に関わって

・本校では，花を育てる活動も活発に行われている。人だけではなく，花や物を大切にすることで思いやりの心も育っているのだと思う。本校に来ると，挨拶や親切な行動，暖かいことばをかけてくれる児童がとても多いと感じる。一人ひとりが安心できる居場所があるのだと思う。
・挨拶は，とても大切な活動である。子供の様子をよく見て，習慣づけ本校の中で育ててほしい。

Ⅱ　「確かな学力の定着」に関わって

・小学生は発達段階の差が大きい。一人ひとりが違うから，型にはめず長い目で見て，本人のやる気が出るような指導をしていってほしい。その中で，最低限の基礎学力をつけていくことが大切。
・学力も大切だが，まずは，人間力を小学校で身につけてほしい。弱い人間にならないように，学校と

家庭でそれぞれの役割を果たしていく必要がある。
・小中の連携も大切。中学校での学習への取り組みを踏まえた指導も必要だと思う。
・宿題は，やらされる活動ではなく，必要なこととして理解と納得させながら取り組ませていくことが大切である。

Ⅲ　「健やかな心と体」に関わって

・今年度，善誘館小学校児童見守り隊の活動が，山梨県警察本部及び山梨県安全協会よりその活動への功績が認められ，表彰されたことは大変うれしいことである。これからも，学校・家庭・地域が一丸となって児童の安全・安心を推進していきたい。

Ⅳ「開かれた学校づくり」に関わって

・PTAが組織として保護者の個々の意見をまとめ，学校の活動がより良い方向に進めるようになるとよい。
・家庭としての役割が果たせるよう，全てを学校の責任としない体制づくりが必要。
・今と昔では時代が違うと言うが，根幹は変わらない。大人が子供に教え，その子供が次の子供に教えていく。その流れが機能していくようにしていくことも大切。

＊児童・保護者の皆様，アンケートへの御協力ありがとうございました。児童・保護者の皆様より頂戴した御意見・御要望，そして学校関係者評価委員会からの提言のそれら全てを真摯に受け止め，学校運営の改善に生かしていきたいと思います。これからも，本校の教育活動の向上のため，御支援と御協力をよろしくお願いいたします。